

企業及びボランティア団体との連携による取組について
～仁別森林博物館・仁別自然休養林を活用して～

東北森林管理局 技術普及課
企画係長 岡浦 貴富

1 課題を取り上げた背景

仁別森林博物館は、秋田県秋田市仁別地区の中核施設として昭和39年に旧秋田営林局が設置し、仁別自然休養林内に所在しています。

平成19年度に施設の老朽化等のため、博物館の展示内容の見直しと建物の改築を行い、平成20年5月3日にリニューアルオープンしました。これを契機に、企業及びボランティア団体と連携した取組を博物館及び自然休養林で開始したので、これまでの活動成果を報告します。

2 取組の方法及び経過

アサヒビール株式会社（以下「アサヒビール」）は、林野庁が推進する「レクリエーションの森」オフィシャルサポーターとして森林の整備・管理活動を支援しています。同社は、その支援の一つとして博物館が所在する仁別自然休養林に関する支援協定書を仁別森林博物館ボランティア案内人会（以下「案内人会」）及び東北森林管理局の三者により平成20年8月27日に締結（三者協定）し、支援及び活動を行っています。

これらの協定活動の中で、案内人会と東北森林管理局が協力して博物館や休養林で体験型森林環境教育（見たり・聴いたり・嗅いだり・触ったり・体験したり）を行っています。また、アサヒビール秋田支社の社員とその家族、関係者等及び案内人会と協力した森林整備活動（三者協定活動）を継続的に行っています。

3 取組の成果

（1）仁別森林博物館における体験型森林環境教育の取組

博物館では、来館者が案内人会から説明を聞いて見るだけでなく、木

の香り、木の重さ等を感じたりするなど、ワークシートを使用した体験型の学習を構築して、学習活動の取組を始めています（写真1）。

（2）仁別自然休養林における体験型森林環境教育の取組

案内人会が自然休養林を案内・説明するだけでなく、来園者にホオノキの葉を使ったお面（被る）、笹の葉を使用した笹舟（流す）やイタダリの茎から笛（吹く）を製作したり、自ら体験することができるメニューも取り入れています。来園者からは「知人にも紹介したい」や「子供達も楽しめた」等の感想が聞かれ、一定の評価を得ています（写真2）。

（3）森林整備活動

平成29年度までに三者協定活動を延べ14回（歩道へのウッドチップ敷設、散策路整備、東屋やトイレ施設の整備）実施しています。これらの活動によって休養林を訪れる方が快適に過ごせるようになっており、また参加者にとっても良い自己啓発となっています（写真3）。



写真1 ワークシートを使用した体験型学習



写真2 笹の製作



写真3 散策路の整備

4 考察

仁別森林博物館のアンケート結果から、三者協定により案内人会の取組が効果的な森林環境教育につながっていることがわかりました。また、「体験メニューの充実化」や「もっとPRすべき」との意見もあることから、博物館を楽しみながら学べるメニューの追加、そして森林・林業に関する貴重な資料、魅力ある展示物（森林鉄道の機関車）や体験できるメニューの情報を発信し、より多くの国民の皆様は博物館及び休養林を利用していただくため、今後も様々なPRや活動を行っていきます。